

これよりバッチオはフラ・バルトロムメオの名を以て畫僧として世に知らるるに至つた。サゾオナロラは嘗て説教のうちに「若し修道僧にして天職とすべき説教の方に乏しく神學研究の慧智なきものならばよろしく繪畫建築を研究すべし」と説いたことを想起し、爾後自己の藝術を以て神の爲めに捧げ社會の福祉に貢獻せんと決心した。従つて彼の描かんと欲するものは直接間接に宗教に關するものであつた。斯くて僧院に入つて以來はじめて出來た繪はフ市のアカデミアに掛つてある「聖バーナードの幻想」である。この繪は或る僧院の祠堂に用ふる爲めであつたがどれ丈けの潤筆料を支拂ふべきかについて僧院長及び注文主との間に意見が纏らず仲裁者が幾人も呼ばれ遂に決定したので筆者が貰つた額は百フロリンであつた。と云ふ曰く附きの繪である。

## 新著紹介

### ○地理學叢話

山崎直方著 四六版二六二頁 古今書院發行 昭和七年六月 定價一圓八〇錢

山崎先生の短篇を第三年忌に際して門下の方々が編輯されたものが美しいこの叢話である。學窓にあられた頃の「大磯驛近傍にある横穴塚穴の話」から薨去された昭和四年の「獨逸と聯合國の科學上の融和」に至るまでの十七篇が集められてゐる。先生のオリヂナルな業績は藝に山崎直方論文集前後二篇として上梓されたがこの叢話の方は如何にも先生の機智や鋭鋒を窺はせるものがあつて地理學の面白さを容易に覺えさす點が著しい。先生の透徹した精緻な筆致や語風は如何にも地理學説述の模範である。秋夜故人を偲びながら靜かに本書を繙かば地理學の琴線に觸れるべきを期してよい。たゞ裝幀の南國の島の地圖や隼人石の圖版などに編纂者の説明がない爲めに讀者の感興を殺ぐ恐れがないのを編纂各位に御注意申上げる。(N)

### ○寶石の話

西岡薰祐著 四六版二三四頁 古今書院發行 昭和七年七月 定價一圓八〇錢

寶石を礦物學的に説明したもので寶石を中心とした人事の葛藤などを書いた「話」ではない。第一編の研究方法は總論であつて人造寶石の章に書いてある所は寶石愛玩者の是非知らねばならぬ事柄である。第二編の各論の方には總ての寶石類を記述してゐる。但し本邦産のものについては寶石にならぬものまで産地を舉げてはあがるが、寶石として用ひられたり、

又は用ひたことのあるものに就いての記事に甚だ乏しい。恐らくこの著者は日本の最大寶石書たる鈴木博士の寶石誌を參考されなかつたことと思はれる。日本支那の記事の缺けてゐる以外では本書は學問から見た寶石の一般を知るに適した良書である。尤も日本で用ひられる殆んど總ての寶石が外國産である以上寶石愛蔵者には之を以て足りると云へる。(S)

### ○地形圖の讀方

地理教育研究會編 菊版九六頁 地形圖多數 中興館發行 昭和七年六月 定價一回

二十錢

近來地形圖讀法の種々出版されるのは地學を普及させる點で最も喜ばしいことである。本書は讀圖に必要な基礎知識を説明し、實景寫眞で地物圖式を一目して解る様にしてゐる。尤も山腹の散岩に砂利濱の寫眞を以て代用したのなどある。

第二編は本書の主要部である地形圖の讀方で、大きく自然地理と人文地理に分け各種の地形を日本の五萬分ノ一地形圖の模式的のものを選び、地形圖を入れて簡単に説明してある。中等教育に従ふ方々の備忘録將た又日本地理教授資料として好適のものである。尤も褶曲地形として選出された九州山脈

や阿武隈山脈には褶曲に影響が少しも表はれて居ない、寧ろ新潟縣の油田で適當のものを採り出した方がよいと思はれる五萬分ノ一地形圖を縮めたものに親切にも挿尺を入れて置いてあるにも係らず、縮小圖には約十萬分ノ一になつてゐても

五萬分ノ一之尺などと一々記してあるなどは速かに訂正すべきである。篠山盆地を標式的地溝などといふのも地質構造が判つてゐる今ではおかしい。説明が簡單である爲めに難も少ないが僅かの誤植を訂すと共に説明も今一きは吟味すべきであらう。(S)

### ○氷河と萬年雪の山

小島島水著 四六版、四〇六頁 寫眞版、三八頁 定價二・七〇、東京梓書房發行

著者はいふまでもなく日本山岳會創設者の一人で、嘗つて「日本アルプス」其他の名著によつて令名を天下に博めた我が山岳界の元老である。今回其の十餘年に亘る在米時代の末期及び昭和二年歸朝以來、諸新聞雜誌に寄稿した山に關するものを輯めて本書を刊行した。

書中收める所は著者が「山のいかなる部分にも勝つて」好む氷河あるが故に殊の外愛して、在米の間訪れたキャスケード山脈とシエラネヴァダの山や谷、及び著者が久しく熱愛する祖國の山々、特に日本アルプス及び富士山に就ての感想、紀行及び考察である。

本書は大體に於て二分されて前半は主として米國の山に、後半は日本の山に割かれて居る。前半ではキャスケード山脈の紀行やシエラネヴァダの水河及び其の遺跡に關する觀察等の外に、其等の山と祖國の山との比較、對照が記されて居る著者は飛驒山脈とシエラネヴァダとの間に多くの類似點を求め、キャスケード山脈を富士山脈に比する。シエラネヴァ

ガは氷河に蔽はれた期間が短く、現今極めて小規模な氷河が造つて居るに過ぎないが、明瞭な氷河遺跡を持つて居る。此の點でも、アルプスやヒマラヤよりも遙に日本アルプスに近く従つて其の研究が日本の氷河問題の解決に有力な鍵を與へてあらうことを著者は力説する。

本書の後半に入つて著者は日本アルプスなる名稱の起原を考證し、北、中央、南アルプスに就て概説し、或は英人による日本アルプスの早期探検や著者の體験を述べる。次で日本アルプスの特徴は美しい森林、清冽な溪水、純美な萬年雪及び美事なカアル帯にあることを説く。更に進んで八〇頁を費して日本アルプス雪蝕地形論が書かれて居る。之に於ては先づ日本に於ける氷河問題の沿革を説き、諸家の所説を紹介し次で其等の説を検討しつゝ、諸種の氷河遺跡、地形を説述し結局日本アルプスに於て氷河の遺跡や氷河の地形と認むべきものがないと斷じ、最後に雪蝕を説き、日本アルプスのカアルが雪蝕によるものとの決論を下す。其の決論の是非は兎も角として、其の所論堂々として専門學者の鼻を靡して居る。

本書の最後の數十頁は著者の少年時代以來仰ぎ崇めた不逞の高根に主として費されて居る。それは歸朝以後の登山紀行であり、新に得た感想を録したものである。其の後に八ヶ岳高原、お札博士の富士山講演、木曾街道の錦繪の三章があつて本書は終る。

以上の如く本書の内容は豊富、有益であり、興味が深いも

のである。其の文章は何しろ名文家の著者の事故、流麗なことは云ふまでもない。本書の印刷は良く、誤植は全くない様であり、装訂は美しい。本書に關して特に言ひ落してはならないのは美しい寫真版が多數あることである。其の中には主としてキヤスケード諸山及びヨセミテの氷河及び其の遺跡地形のものが最も多い。

要するに本書は山岳家の必讀すべきは勿論として、山に興味を有する地學愛好者の一讀すべき好書であることを信ずる。(M)

## 雜報

### ○カナダの人口 一九三一年五月三十一日—六月一日施

行された國勢調査の結果によるとカナダの人口は一〇、三七四、一九六人にして一九二一年以來の増加百五十萬人である。各州の人口数を一九二一年のものに比すると興味ある増減が見られる。四州を除いた凡ての州は五%から三〇%の増加がある。人口少きユーコン・テリトリーでは僅に七十三人を増したがプリンス・エドワード島、ノヴァスコシア及北西地方では皆人口減少を示し、最後の地方では減少すること一〇%以上に達した。ケベックは増加數最も大にして五一三、〇五六人の増加あり、之に次ぐはオンタリオの同じく四九八、〇